

横浜都市発展記念館及び  
横浜ユーラシア文化館指定管理者選定委員会

横浜都市発展記念館

議事要旨

## ◆第1回選定委員会

議題	1. 委員長の選任 2. 業務基準、公募要項、提案課題、評価基準の検討 3. 選定スケジュール、評価手順の確認
日時	平成17年7月4日（月）午後3時から午後5時まで
開催場所	関内駅前第二ビル2階 特別会議室
出席者	上山 和雄（國學院大学教授） 川口 徳治朗（神奈川県立歴史博物館学芸部長） 齊藤 毅憲（横浜市立大学教授） 末崎 真澄（(財)馬事文化財団馬の博物館学芸部長） 西田 由紀子（よこはま市民メセナ協会会長） 水嶋 英治（常盤大学大学院教授） 室谷 参（横浜市立小学校長会 並木第四小学校長）

## 審議内容：○ 委員会運営決定事項

- ・上山 和雄を委員長に決定
- ・今後の委員会の公開非公開の決定

## ○ 業務基準、公募要項、提案課題、評価基準、公募要項の検討

## ＜業務基準について＞

- ・市としての文化財等施策の「基本方針」、施設の「業務基準」について
- ・専門性の担保について

## ＜公募要項について＞

- ・一次、二次の二段階方式、手順、スケジュールについて
- ・一次、二次の審査の方法、採点の分離、最低ライン設定について
- ・評価の点数化の方法について
- ・評価結果の応募者への伝達のあり方、審査報告書のあり方について
- ・具体的な評価ポイントの事前公表について
- ・透明性の確保について

## ＜提案課題について＞

- ・課題の内容について
- ・応募者の創意工夫を受け留める自由提案について

## ＜評価基準について＞

- ・評価の判断基準の共有化について
- ・経費削減、収支予算の評価について
- ・提案書類と実態能力の乖離を小さくする方法について
- ・ヒアリングのあり方について

## ○ 決定事項

- ・公募スケジュールの決定
- ・業務基準、公募要項、提案課題、評価基準の決定

## ◆第2回選定委員会

議題	1. 一次審査 2. 一次審査通過団体の決定
日時	平成17年8月24日（水）午前10時30分から午前11時15分
開催場所	関内駅前第二ビル2階 特別会議室
出席者	上山委員長、川口委員、齊藤委員、末崎委員、西田委員、水嶋委員、室谷委員

審議内容：○経過の確認

- ・公募告知、要項等配布の状況
- ・公募説明会の参加状況、現場見学会の状況
- ・質疑応答の状況

○応募団体確認

- ・1団体の提案の確認
- ・欠格条項非該当の確認

○一次仮評価の検討

- ・評価得点の確認
- ・通過最低ラインの確認

○1団体からの一次提案書の審査

<コンセプトについて>

- ・「昭和の語り部」というコンセプトについては、よく考えられたものと高い評価がなされた。

<知名度のアップについて>

- ・よい内容をもっていても、多くの人の目に触れないでいるのはもったいない。知名度が低く、知名度アップに積極的に取組んで欲しいという、課題の指摘とともに要望が強く指摘された。
- ・資料の収集成果、調査研究の方向を世間に問う、開港資料館との連続性をもっと打ち出すなど方策も必要であるなど意見が提起された。
- ・昭和をあまり知らない世代にうまく訴求するようなPRを考えていくことも大切といった指摘があった。

<ファンドレイズについて>

- ・ファンドレイズについて曖昧で、具体性に欠けるので、二次提案の課題であるという指摘がなされた。

<他施設との連携について>

- ・財団所管の施設だけでなく、もっと周辺にある官民間問わず、広い施設との連携が必要ではないか。また、開港資料館との連携のなかで位置づけるという

た見解もあるが、むしろすみ分けて、独自のスタンスを作ることも必要ではないかという指摘もなされた。

<組織体制について>

- ・提案内容に対して、組織規模、人員に限られるので不安もあるとの指摘がなされた。

<全体として>

- ・提案内容としては高い水準にあり、一次通過には十分であるが、内容や役割機能に対して知名度が課題であり、そのアップに対する期待が強く指摘された。

○ 一次通過者の決定

- ・最終採点の結果、3以上評価の獲得率も100%、評価得点は1650点中1422点と高い評価点を獲得したことから、一次審査通過と全員一致で決定された。

■一次審査結果： 一次審査通過団体

財団法人横浜市ふるさと歴史財団

## ◆第3回選定委員会

議題	1. ヒアリング 2. 二次審査 3. 最優秀提案者の決定
日時	平成17年10月9日（日）午前13時00分から午後1時50分
開催場所	横浜開港資料館 講堂
出席者	上山委員長、川口委員、齊藤委員、末崎委員、西田委員、水嶋委員、室谷委員

審議内容：○ 経過の確認

- ・ 二次現場説明会の状況
- ・ 二次質疑応答の状況

○ 二次提案書提出応募団体確認

- ・ 1団体提案の確認

○ 二次仮評価の検討

- ・ 評価得点の確認
- ・ 通過最低ラインの確認

○ 一次通過 1 団体からの二次提案書に対するヒアリング

<開館以来の方針について>

- ・ 開館から2年間立つが、基本的なコンセプトが確立されていなかった印象を受けるといふ提起に対して、専門分野ごとにばらばらに取り組んでいた側面があったのは事実で、今回館として明確な使命を設定するなど、改善を図ったとの説明がなされた。

<地域社会のシンクタンクというコンセプトについて>

- ・ 3つのコンセプトのうちの一つのシンクタンクがわかりにくい。なにを行うのかという質問に対して、地域社会をよりよくしていくために、自分たちのまちを知ってもらうためのお手伝いをするを考えていると回答があった。

<知名度アップのアプローチについて>

- ・ 関内、中区、横浜市といった逐次に広げるアプローチが提案されているが、これは本当に有効な取組みであろうかという疑問に対して、地道にかつ多様な手段で取組むが、一つのメリハリをつけるために、地域を設定して取組みを行うことを想定したという説明がなされた。これについては、戦略としてもう一度見直す必要があると指摘された。

<昭和に特段の意識を持たない人へのアプローチについて>

- ・ 昭和に懐かしさをもたない小学生などへのアプローチはどう考えているのかという質問に対して、子供向けには別に解説シートを作るなど、考慮した取

組みは行っているとの回答があった。

＜すみ分けについて＞

- ・都市発展記念館と他施設とのすみわけが明確でないという指摘に対して、時代区分などで明確な線は引かずに、都市形成、市民生活、文化という3つの歴史をテーマにして取組んでいるので、時代という軸では輻輳する面はあるという回答がなされた。

＜市民にとって何をしてくれる施設なのかについて＞

- ・市民にとってなにをしてくれる施設なのかが見えにくいという質問に対して、「我が家のお宝」という企画テーマを提案しているが、自分たちの生活史から積み上げていくような企画も考えているとの回答があった。

＜麻真田関連の収蔵について＞

- ・麻真田関係の収蔵のために民間倉庫を借りているが、活用の方法があまり見えないのであれば、今後について判断をする時期ではないかという質問に、十分考慮に入れて検討をして参りたいという回答が成された。

＜教育との連携について＞

- ・昭和に重点を置くのは教育としてありがたいが、教育内容等との接合をもっと具体的に検討してもらいたいという要請に対して、歴博にいるエデュケーターなどを活用して取組みたいという回答があった。

＜ボランティアの導入について＞

- ・ボランティアを広げていく取組みはあるのかという質問に対して、ボランティアを束ねている団体等との連携など工夫はこらしていくという回答があった。

＜データベースの構築について＞

- ・データベースはいつごろから市民が使える状態になるのかという質問に対して、平成20年には公開を考えているが、今後は展示室の狭い分を補う意味もこめて、データとしての活用に取り組むとの回答があった。

## ○ 二次審査

＜評価の仕組みの構築について＞

- ・様々な提案の成果を評価できる評価期間、あるいは評価の仕組みを構築する必要があるという意見が提起された。また、20年、30年先を見て、現在を評価するような仕組みも必要であるとの指摘があった。

## ○ 最優秀提案者の決定

- ・最終採点の結果、3以上獲得割合7割という最低基準ラインに対して100%、評価得点2730点中2060点と高い評価を獲得し、最優秀提案者として決定することに全員が一致した。

### ■二次審査結果： 最優秀提案者

財団法人横浜市ふるさと歴史財団